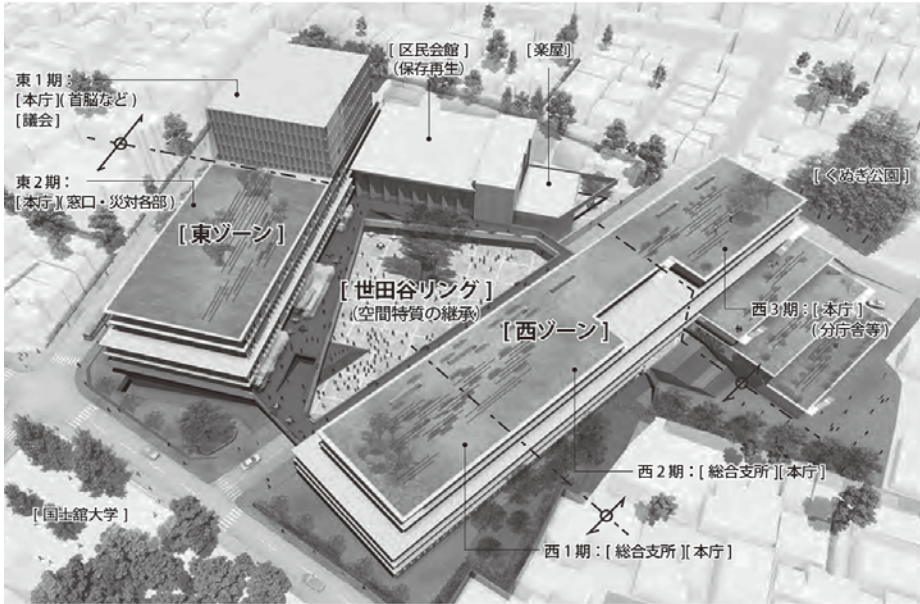


# 世田谷区の災害対策の中核本庁舎



●東日本大震災から7年。本来なら首都直下地震に耐えうる世田谷区を目指すべく当選した保坂区長●しかしこれまで小手先の修正だけで、本庁舎整備を逃げ回り、また関心もなかった前川國男建築保存を持ち出し、先延ばしにしてきた保坂区長も、つい一昨年の熊本地震の発生から観念し、災害対策型の本庁舎整備に向けて動きだしました。2年遅れです。



## 本庁舎建設の流れ

平成 28 年 12 月基本構想決定  
平成 29 年 5 月設計者公募  
平成 29 年 9 月公開審査  
平成 29 年 9 月 27 日決定

●現在地に、本庁舎、議会棟、区民会館、「世田谷総合支所」を配置し災害対策の拠点とし、また避難場所、救援物資の集積所、及び緑化率や区民交流等々を含んだ「基本構想」が決定したのが平成 28 年 12 月です●続いて「基本構想」を事実上の「仕様書」として設計者を公募し、公開審査を経て「佐藤総合計画」（上記イメージ図）に決定したのが昨年 9 月です●現在は地質検査や測量をもとに基本設計の作成段階です●総工費は約 400 億円。但しここまで来るにも身勝手な保坂区長の迷走が思わぬ犠牲者を出し区役所が大混乱したことは知られていません。

前代未聞！

## 保坂区長の迷走と副区長辞任

●実は、庁舎計画が2年以上も遅れた理由は、保坂区長の「前川國男建築の第一庁舎と区民会館保存」のこだわりがありました●しかし現在地での「区役所運営しながらの新たな建築」は面積的に出来ないのです。第一庁舎が区民会館の両方、もしくは片方を壊して「空き地」を作らねば新庁舎建設はできません。保坂区長はあとから気づくのです●このことからしても最初から「前川建築保存」など考えていなかったことは明らかです●そこで考えたのが現在地から「世田谷総合支所」だけを分離し、三軒茶屋に移転させて「空き地」を作ろうという“あと知恵”です●区長選挙公約にも載せて、既成事実化を平成 27 年 5 月以降進めます。

## 三茶NTTの土地に「総合支所」移転図るも二重投資で迷走

●議会では首都直下地震が迫る中、いつまでも「前川建築」にこだわる保坂区長への批判が充満していました●ましてや「世田谷総合支所」の三茶移転は誰が考えても二重投資になることはわかっていました●何故なら、世田谷地域の皆さんにとって本庁舎の隣に「総合支所」がある利便性は今さら欠かせません●仮に三茶に総合支所が移転しても、本庁舎にはこれまで通り、「総合支所機能」は残さなければなりません。そうすると、世田谷地域に「2つの総合支所」を作ることになり二重投資となります●冷静に考えれば誰にでもわかることですが、またしても保坂区長の身勝手な判断で事業が迷走します●移転先である三茶 NTTとの交渉も知らぬまに始まっていて、最終的に交渉を中止にできたのは昨年の 11 月のことです●このドタバタの最中、昨年の 6 月ですが庁舎担当の副区長が突然、辞任します。理由は不明ですが保坂区長と「何か」で衝突したことは明らかです。「抗議の辞任」でしょう●結局、前川建築は「第一庁舎は解体」、「区民会館は外装的保存」という段階に今あります。

— おおば正明の少々長い、あとがき



●今回は 58 号、59 号一緒にお届けします●58 号では「民泊問題」を、59 号では区政の最近の動向をお伝えしました。特に「民泊」については多くの問題を含んでいます。また「民泊の仕組み」についても調べられる範囲で書きました。「エアビーアンドビー」という会社も紹介しました●こういう会社が登場する背景には、日本政府の「シェアリングエコノミー推進」という国家戦略があります●「シェアリングエコノミー」とは、日本語では「共有経済」と訳されているようです●民泊については「遊休資産の共同利用」ということになるのでしょうか●先ほどの「エアビーアンドビー」は泊まりたい人の身元を保証し、また泊まる場所の快適性を保証することで、両者（ゲストとホスト）が安心して利用できるシステムとなっています（さらに利用者のレビューが公表され淘汰される仕組みもあるそうです）●そうでなければ、ネットだけのやりとりだけで自分の部屋を貸すなんて怖くてできないでしょう●しかしもっと大きな視点から見れば、インターネット（SNS）の普及による「仲介者抜き経済」につながるとも考えられます●例えば上記の仕組みを使えば、「アパート賃貸契約」も可能ではないでしょうか？アパートの持ち主が直接、借りたい人と契約することができれば街の不動産屋さんは商売あがったりとなります●同様にネットオークションサイトでは、農産物まで取り引きされているようです（ここは自己責任でしょうが）●いずれにしても、それまでの中間業者を飛び越えて、生産者（提供者）と消費者（購買者）を結びつけてしまう時代です●その最たるものが、あの「アマゾン」ではないでしょうか？読みたい本があると翌日に配送されてきます。（電子書籍なら瞬時に）多くの人がその速さの便利さを知っていると思います●一方で日本中で「街の本屋さん」がなくなっています●話はずれますが、現在、ある意味時代の過度期なのかも知れません。「アマゾン」の便利さを知ってしまった以上、「シェアリングエコノミー」の可能性を否定できないでしょう●しかし、「いきなり民泊」のような形で世田谷区に流入させるのは、絶対に問題だと思います●何度も言いますが「違法民泊」が問題なのです●議会ではやるだけやります。この問題をどう考えるかは区民の皆さんの判断です。施行は 6 月です！

## 保坂恐怖政治の始まりと面従腹背？の組織

●過去の世田谷区政を調べても、事務方のトップである副区長が任期途中で辞任することは前代未聞です。（健康上の理由でも家庭の事情でもありません）●しかもこれまで6年以上も、自民党から共産党まで、理由は様々ですが保坂区政への批判を全身で受け止め、盾となっていた副区長です●その副区長が昨年の 6 月定例会中に辞任するとは、よっぽどのことがあったとしか考えられません●もちろん、実際は保坂区長が「クビ」にしたのです（体面上はどうであれ、役人人生を長く務めたら、年度末とかの区切りで去るのが常識。事実このあと主要人事変更で庁内はバタバタ）●理屈で勝てなくなった独裁者が最後に言うのは、「クビだ！」です●これは職員に緊張が走ります。身分保証されている公務員の世界では、事件の犯人でもならない限り、クビなどありえません●それが政策上の違いでクビになるのですから、恐怖でしょう●組織はこれまで以上に萎縮し、区長の顔色を気にし、区長にとって大事なことを優先するでしょう。（優先順位が間違っていると思っても）●果たして、「一番の部下」ですら「説得」できなかった保坂区長の「判断力」にどれだけの区民が納得できるでしょうか。（おおば正明）

